

空気をつかまえる Gcatch the air

浮川 秀信 UKIGAWA Hidenobu

2021年10月06日(水) - 10月16日(土)

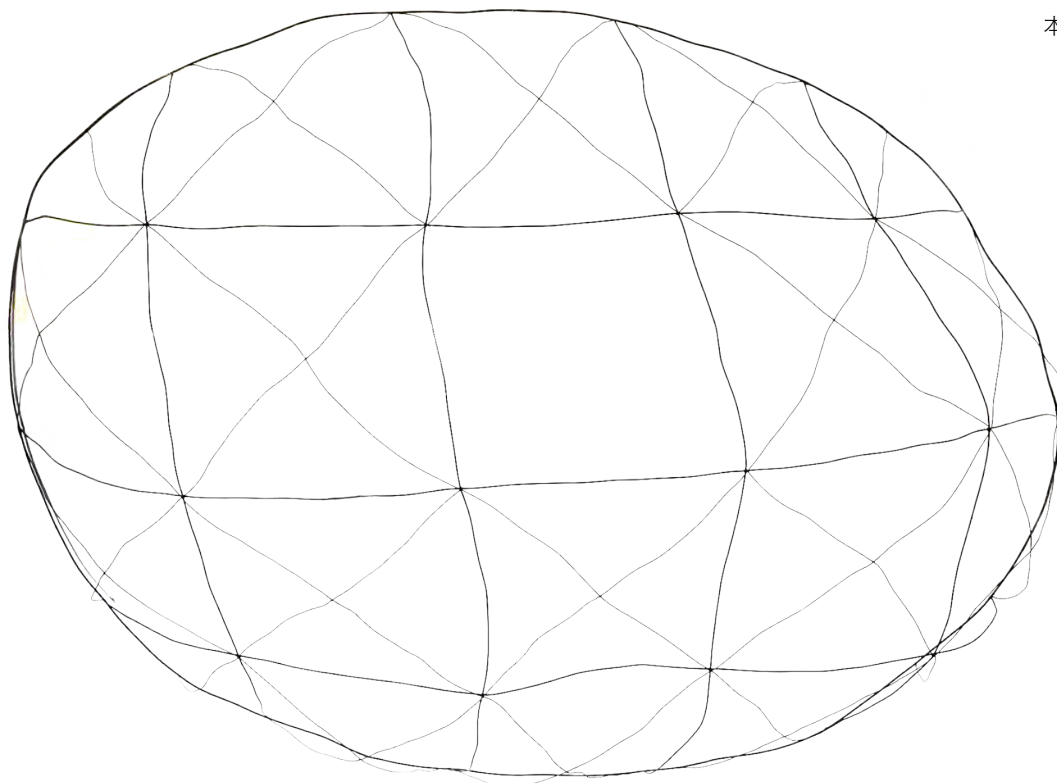
OPEN pm 12-7 水・木・金・土曜(日・月・火曜休廊)

禅の公案に「ヒョウタンでナマズをつかまえる」というのがあるそうです。どうしたらヒョウタンでナマズをつかまえられるか?というのですが、普通に考えたらヒョウタンの小さい口にナマズを押し込むのは、どう考えても無理。ナマズも人が近づいたら逃げていくだろうし。

浮川秀信は、細いピアノ線で空気をつかまえる、と言います。それも1本あるいは数本のピアノ線だけで。これも普通に考えたら、5ミリほどの歪んだ細い線で空気をつかまえるのは到底不可能です。では、どうやって?これを理解するには、公案と同じくちょっとした飛躍が必要です。4年前の+1artでの個展の折に浮川はこう書いています。「確かなものと不確かなもの、全体の揺らぎ—アクアリウムならぬエアリウム」。ここにヒントがありそうです。

本展では、浮川の新作大小約10点で空間を構成します。

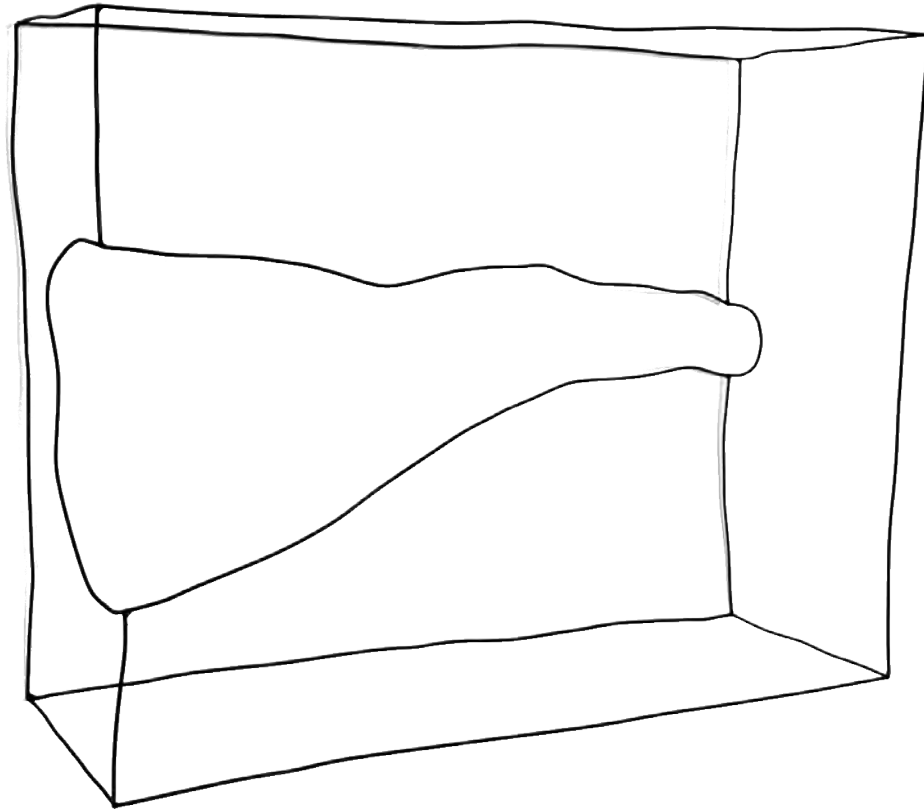
+1art



| 展示作品 |

ピアノ線口ウ付による立体造形、2021年制作

50X50xH200cm、160x120xD40cm、3mmxH200cm、他 約10点

浮川
秀信

UKIGAWA Hidenobu



2017年の前回 (+1art) では「エアリウム」と題しての個展であった (アクアリウムならぬエアリウム)、今回も殆ど変わらず線材を使って曲がりくねった線とその空気感を考えながら作品を作る。しかし、物理的な空気であれ雰囲気としての空気であれ、空気感を大切に考えている造形家は沢山おられる。そこで空気を積極的に捕まえることを考えて、空気の動き・考えながらの造形。 浮川 秀信

大阪生まれ、1968年「あの画廊」にて初個展 (F・R・Pによるオブジェ)。以後素材にこだわることなく造形を試みている。1976年須磨現代彫刻展、アートナウ77等。大阪から奈良への転居を機に吉野杉の間伐材を削り組み立てる作品を作り始め、作品と共に周りの空間もテーマとする。細い木がますます痩せてここ10年くらいはピアノ線を素材に制作している。

近年の個展 2020, 2016年 gallery 勇斎 (奈良)、2019年 gallery 猫亀屋 (大阪)、2017年 +1art (大阪)、street gallery (神戸)。